

# 大阪府におけるエイズ発生動向

令和2年（2020年）1月1日～12月31日

大阪府健康医療部保健医療室

## 目 次

### 令和2年（2020年）のエイズ発生動向

1 概要	.....	P 1
2 総括	.....	P 2
表1	2018年～2020年に報告されたHIV感染者及びAIDS患者の内訳の比較.....	P 3
表2	2020年末現在のHIV感染者及びAIDS患者の国籍・性・感染経路別累積報告 件数.....	P 5
表3	HIV感染者及びAIDS患者の国籍・性別年次推移.....	P 6
表4	HIV感染者及びAIDS患者の国籍・感染経路別年次推移.....	P 7
表5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍・性・感染経路別年次推移.....	P 8
表6	HIV感染者及びAIDS患者の性・年齢階級別年次推移.....	P 9
表7	HIV感染者及びAIDS患者の国籍・性・感染場所別年次推移.....	P 11
表8	保健所等におけるHIV抗原抗体検査件数及び相談件数年次推移.....	P 12
図1-1	2018～2020年に報告されたHIV感染者の感染場所の比較.....	P 3
図1-2	2018～2020年に報告されたAIDS患者の感染場所の比較.....	P 3
図2-1	2018～2020年に報告されたHIV感染者の性別の比較.....	P 4
図2-2	2018～2020年に報告されたAIDS患者の性別の比較.....	P 4
図3-1	2018～2020年に報告されたHIV感染者の感染経路の比較.....	P 4
図3-2	2018～2020年に報告されたAIDS患者の感染経路の比較.....	P 4
図4-1	2020年末現在のHIV感染者の国籍・性・感染経路別累積報告数.....	P 5
図4-2	2020年末現在のAIDS患者の国籍・性・感染経路別累積報告数.....	P 5
図5	HIV感染者及びAIDS患者の国籍・性別年次推移.....	P 6
図6-1	HIV感染者の感染経路別年次推移.....	P 6
図6-2	AIDS患者の感染経路別年次推移.....	P 6
図7-1	2020年に報告されたHIV感染者（男性）の年齢階級別割合.....	P 10
図7-2	2020年に報告されたHIV感染者（女性）の年齢階級別割合.....	P 10
図7-3	2020年に報告されたAIDS患者（男性）の年齢階級別割合.....	P 10
図7-4	2020年に報告されたAIDS患者（女性）の年齢階級別割合.....	P 10
図8	保健所等におけるHIV抗原抗体検査件数及び相談件数年次推移.....	P 12

# 令和2年（2020年）のエイズ発生動向

## 1 概要

### （1）発生の主な内訳（表1・表2）

- 大阪府域において、2020年に報告のあったH I V感染者（以下「H I V」と省略）は89件であり、前年に比べて17件減少した。A I D S患者（以下「A I D S」と省略）は24件であり、前年に比べて10件減少した。
- H I V・A I D S報告数に占めるA I D S報告数の割合は、21.2%と前年の24.3%に比べて減少した。
- 累計では、H I Vが2,868件、A I D Sが939件、計3,807件となった。

### （2）感染経路（表1）

- H I V 89件の感染経路を見ると、異性間性的接触が7件（7.9%）、同性間性的接触が65件（73.0%）、静注薬物使用が1件（1.1%）、母子感染が0件（0.0%）、その他が6件（6.7%）、不明が10件（11.2%）で、全体の約8割を性的接触による感染〔72件（80.9%）〕が占めた。前年の割合と比べると、同性間性的接触（69.8%→73.0%）と不明（10.4%→12.4%）がそれぞれ増加し、異性間性的接触（15.1%→7.9%）は減少した。2022年も母子感染（0.0%→0.0%）の報告はみられなかったが、静注薬物使用による感染（0.0%→1.1%）の報告があった。
- A I D S 24件の感染経路を見ると、異性間性的接触が5件（20.8%）、同性間性的接触が13件（54.2%）、静注薬物使用が1件（4.2%）、その他が1件（4.2%）、不明が4件（16.7%）だった。前年の割合と比べると、異性間性的接触（11.8%→20.8%）及び同性間性的接触（52.9%→54.2%）は増加した。また、前年にはなかった静注薬物使用による感染（0.0%→1.1%）の報告があった。

### （3）国籍・性別（表3）

- H I V 89件の国籍・性別を見ると、日本人男性が74件（83.1%）、日本人女性が2件（2.2%）、外国人男性が12件（13.5%）、外国人女性が1件（1.1%）であった。前年の割合と比べると、日本人男性（81.1%→83.1%）と外国人女性（0.0%→1.1%）は上昇し、外国人男性（15.1%→13.5%）と日本人女性（3.8%→2.2%）は減少した。
- A I D S 24件の国籍・性別を見ると、日本人男性は19件（79.2%）、日本人女性が2件（8.3%）であり、外国人男性は3件（12.5%）、外国人女性は0件（0.0%）であった。

### （4）年齢階級（表6）

- H I V 89件の年齢階級を見ると、0～19歳は1件（1.1%）、20～24歳が17件（19.1%）、25～29歳が21件（23.6%）、30～34歳が19件（21.3%）、35～39歳が6件（6.7%）、40～44歳が13件（14.6%）、45～49歳が5件（5.6%）、50～54歳が2件（2.2%）、55～59歳が2件（2.2%）、60歳以上が3件（3.4%）だった。20～30歳代で全体の70.7%（63件）を占めた。

- A I D S 24件の年齢階級を見ると、20～24歳が2件（8.3%）、25～29歳が0件（0.0%）、30～34歳が1件（4.2%）、35～39歳が2件（8.3%）、40～44歳が2件（8.3%）、45～49歳が5件（20.8%）、50～54歳が5件（20.8%）、55～59歳が5件（20.8%）、60歳以上が2件（8.3%）だった。40～50歳代で全体の70.7%（17件）を占めた。

#### （5）感染場所（表7）

- H I V 89件の感染場所を見ると、国内が72件（80.9%）、国外が3件（3.4%）、不明が14件（15.7%）となっており、例年どおり国内での感染が多かった。
- A I D S 24件の感染場所を見ると、国内が20件（83.3%）、国外が1件（4.2%）、不明が3件（12.5%）となっており、例年どおり国内での感染が多かった。

## 2 総括

- H I Vの報告数は、89件であり、前年より17件（前年比－16.0%）減少した。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が56件（62.9%）と依然高く、前年の64件（60.4%）に比べると、割合は増加した。

また、日本人女性の報告数が、異性間性的接触で2件あった。

- A I D Sの報告数は、24件と前年より10件（前年比－29.4%）減少した。感染経路別に見ると、日本人男性の同性間性的接触が12件（50.0%）と最も高く、前年の13件（38.2%）に比べると、割合は増加した。

また、日本人女性の報告数が、異性間性的接触で2件あった。

- H I V・A I D S報告数に占めるA I D S報告数の割合は、21.2%と前年の24.3%に比べ減少した。年代別で見ると、H I Vの報告数は20～30歳代で約70%を占めたのに対し、A I D Sの報告数は40～50歳代で約70%を占めた。このことから、若い世代の啓発を引き続き行い、早期発見・早期治療につなげていくことが重要である。

- 2020年の保健所等におけるH I V抗原抗体検査件数は、12,834件と前年より7,856件減少した(前年比－38.0%)。陽性の件数も72件から49件と減少したが、陽性割合はどちらも0.3%台であった。

コロナ禍の中、受検者数が4割近く減少しているため、さらに個別施策層（※）等への検査受検促進のための啓発や検査体制の充実など、受検者数を増やす方策を検討していくことが必要である。

- 社会のH I V感染症への関心の低下が懸念される中、新たな感染拡大防止のために、特に若者層への正しい知識の普及啓発を継続して実施することも必要である。

※個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために、施策の実施において特別な配慮を必要とする人々

※外国人の数：外国籍の数に、国籍不明を加えた数